

^ 13  
3840  
8





月  
地

足  
利

御  
座  
御  
座

十  
八  
歳

針  
題  
曲  
豆  
國  
惠

門へ13  
號3840  
巻18



足利緒手深紫第十八編序

十八編

との巻

足利緒手深紫第十八編序

おおよそ書作る者の用え小棋骨奪胎といふとあり。さよふ故人の佳作と種と。男と女と。女と男と。或は左と右とあり。右と左と。倣作の類その取捨の巧拙あり。全くいふ物とあるあり。已が物ハ三かにな。他人の趣向七分ある。その劣まることいへる。然るも是利緒の紫女が佳作の妙案と。そのまゝ小捨てやま。と文の幼童に解易うめと作さふ。細さ本一。さるまゝある。作とのみさへ鳥渡るまで。まこといへる。なま見え。えぬ出霊得脱怪怪邪惡切ら撃つものこと。さへ雑へ今様めす。の更小作者の妙案に出る。かの舊習を焼く。これ妙案とする。俳諧者流との趣向と。つふさるも。世の流行ある。さるといへん。

安政三丙辰歳子孟春

(庚)

松亭金水誌

壹

改

五十八翁  
方有後  
静思堪喜  
亦堪嗟  
持盃祝願  
無他語  
慎勿頑愚  
似汝爺

三會姫  
新女僧

六條御所

氏充公

い  
松  
へん

白容之助

曲五因魚

三會  
乳母  
中里

























秋  
舞  
入  
心  
如  
下  
款  
川  
田  
貞  
兵

秋  
舞  
入  
心  
如  
下

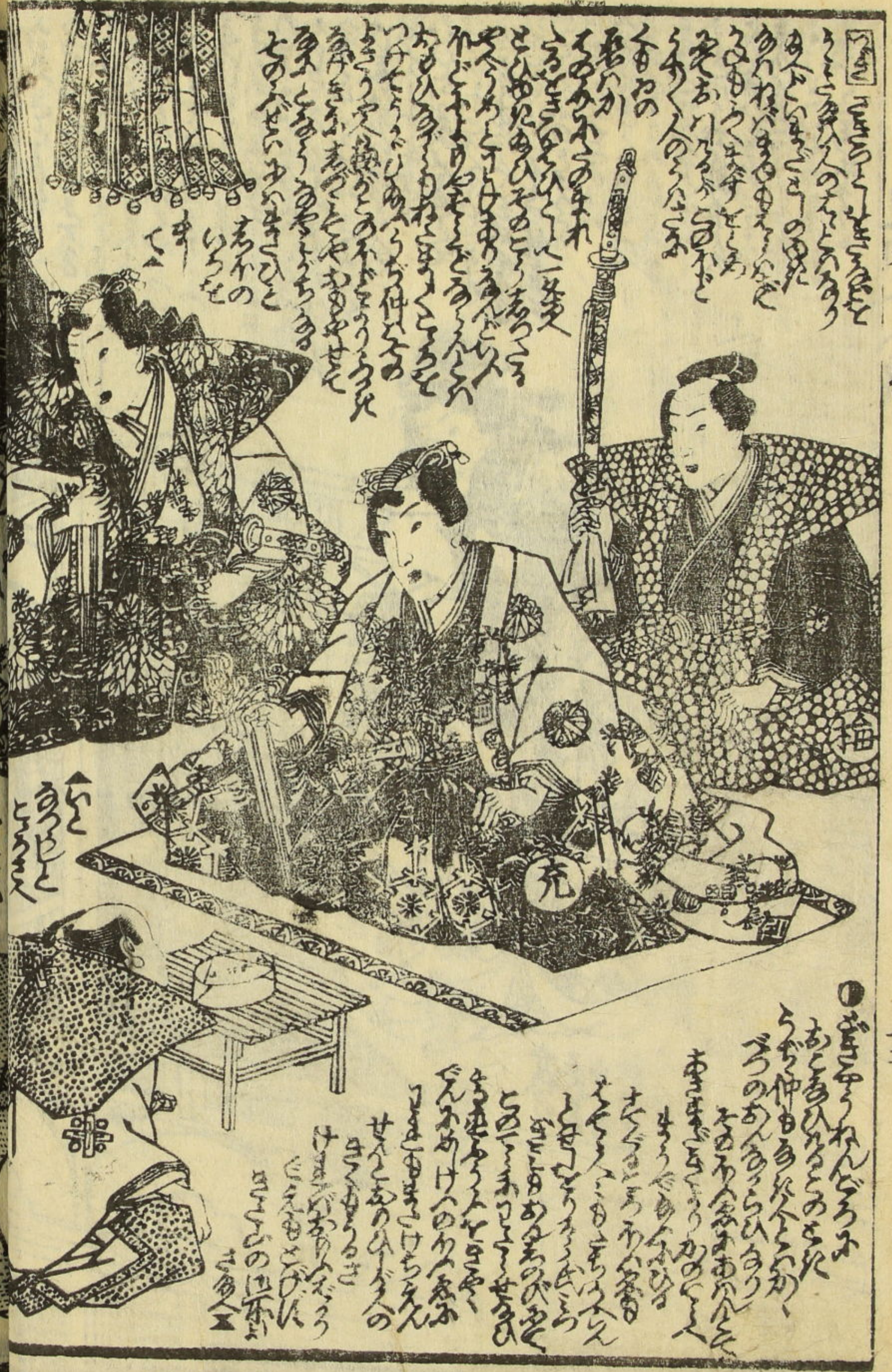








この世のついでに...  
うらやまのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...



あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...



あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...  
あつちのついでに...









いふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ



いふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ

いふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ



いふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ  
ていふはたはのうら  
あつたひまふら  
かたのふくえは  
十多のよるつてえ











福  
長  
壽

十九  
福

不  
題  
曲  
意  
國  
包

















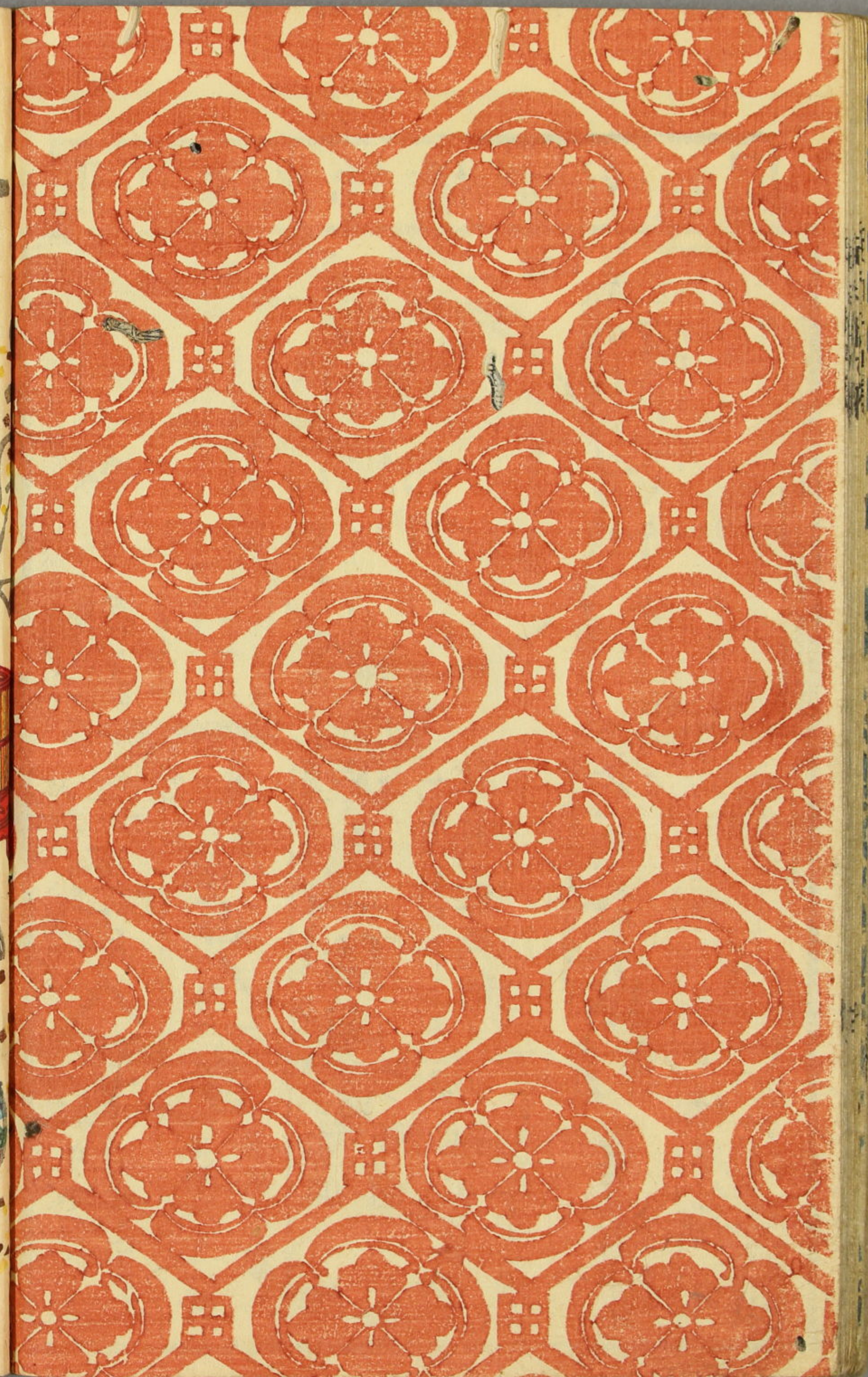












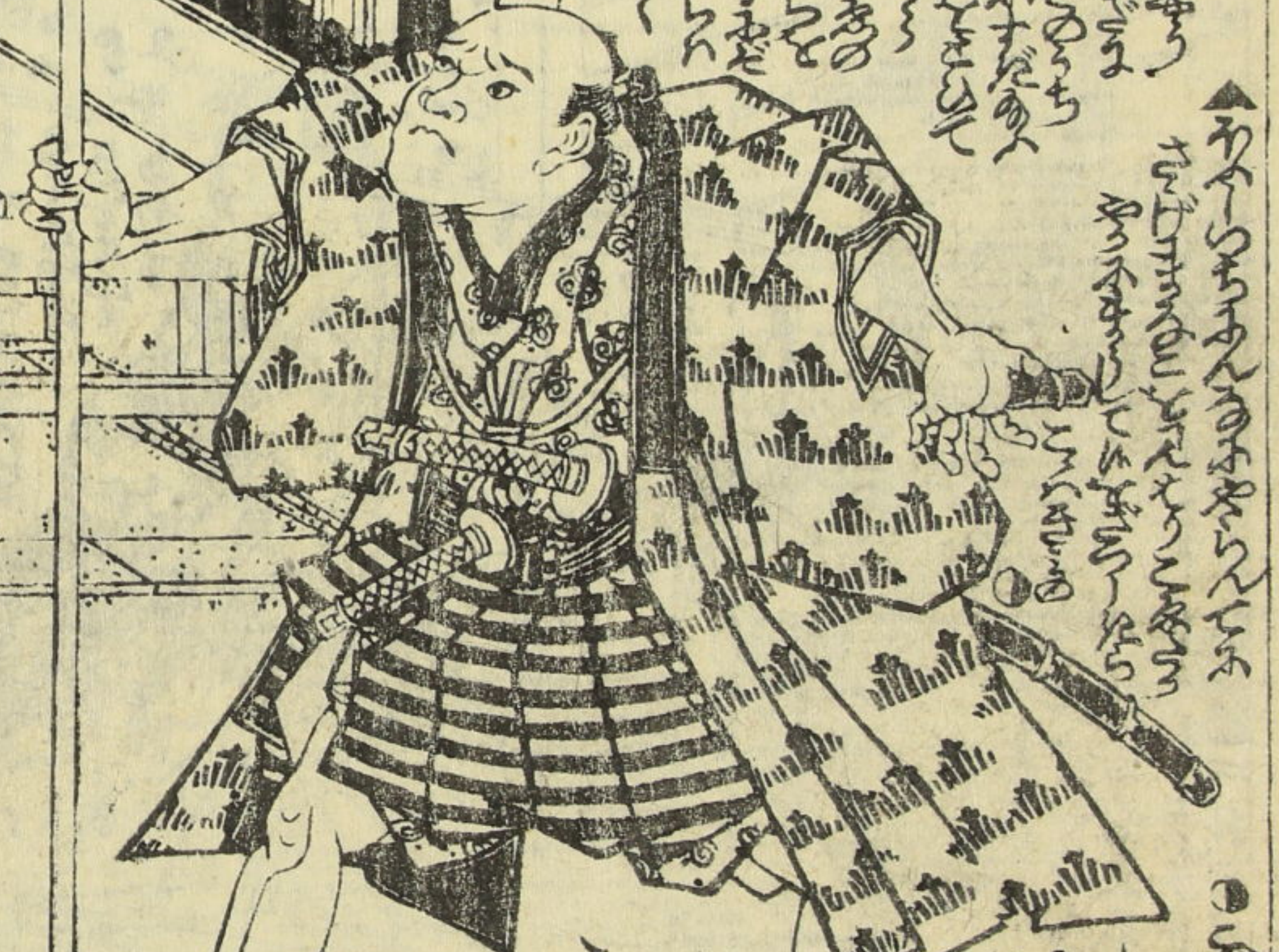








Handwritten text in the upper right corner, likely a chapter or section title, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower right corner, continuing the narrative or commentary.



Handwritten text in the lower left corner, continuing the narrative or commentary.







Handwritten text in the top section of the left page, written in a cursive style.

Handwritten text in the middle section of the left page, continuing the cursive script.



Handwritten text in the bottom section of the left page, written in a cursive style.

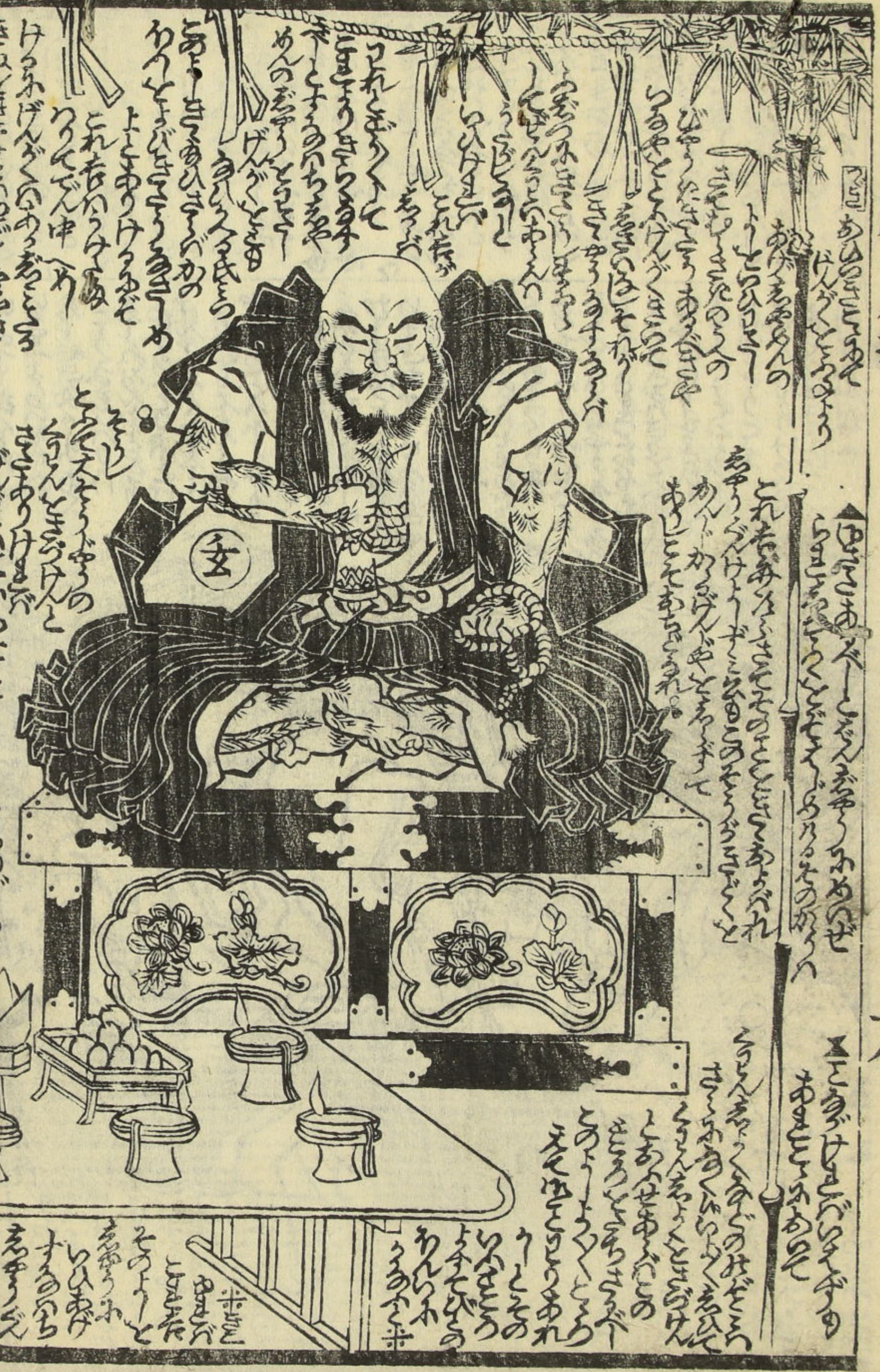
Handwritten text in the top section of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text in the bottom section of the right page, written in a cursive style.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the right margin of the right page.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items related to the illustration. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.

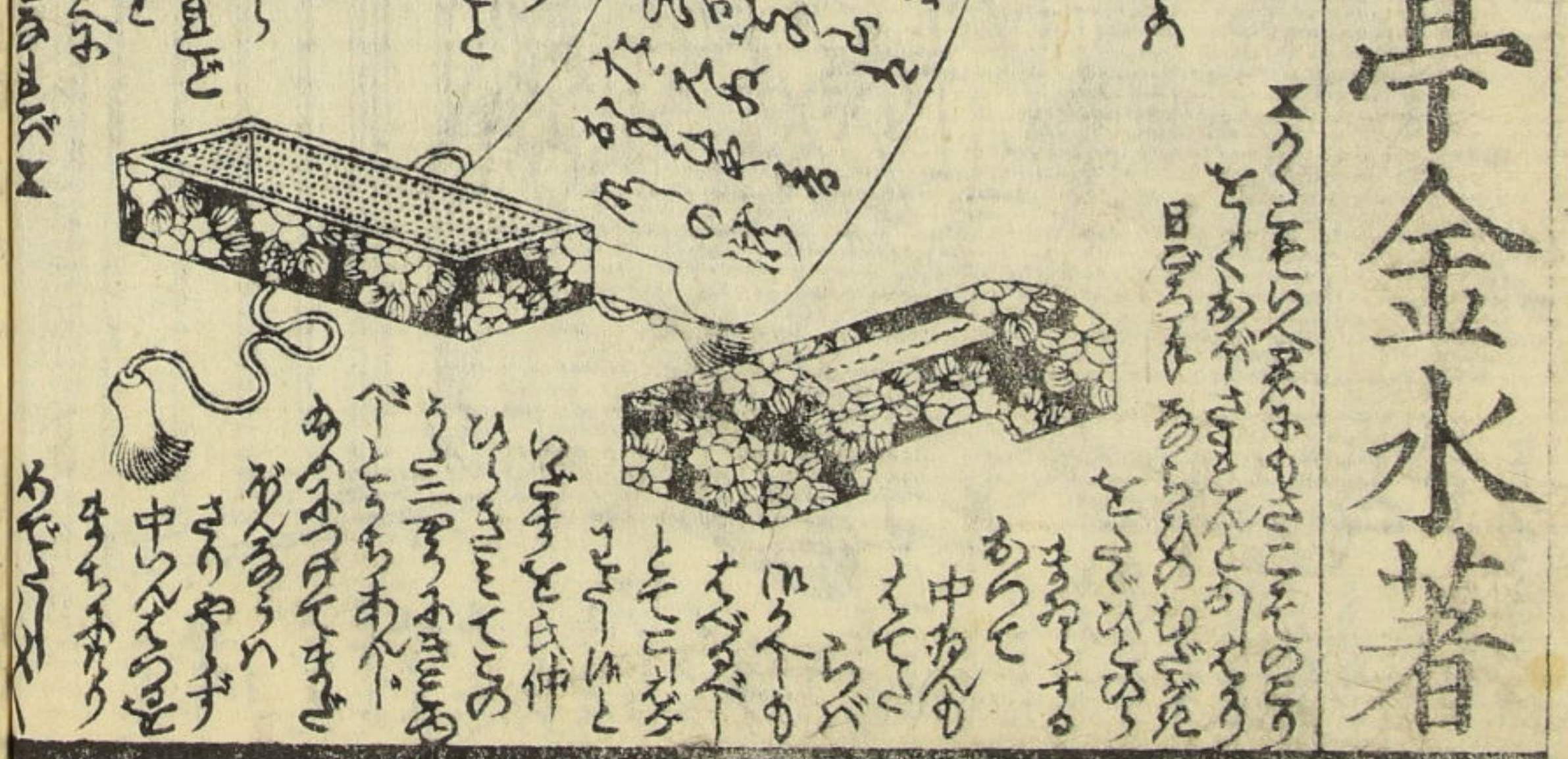
Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or list of items. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.





梅蝶樓國貞画  
此の巻は、梅蝶樓國貞の画である。...

松亭金水著  
此の巻は、松亭金水の著作である。...



己未初春錦橋堂新板目錄

教卓女房形と氣  
十九編 山東菴京山作  
二十編 梅蝶樓國貞画

三利備手深紫  
十九編 金水作  
二十編 國貞画

浄所 浄心  
九編 万亭應賀作  
十編 孟齋好寅画

宮城野 敵討白石咄  
全 孟齋作  
二冊 好寅画

無病 養生手引草  
上 本羽京山作  
下 立齋廣重画

長壽  
右の巻の内から又女の巻をとり  
又の巻をとり又の巻をとり又の巻をとり  
又の巻をとり又の巻をとり又の巻をとり

五拾三驛  
初編 雪住作  
六編 芳虎画

伊賀越敵討物語  
全 孟齋作  
二冊 好寅画

造茶楼最紙  
十編 梅彦作  
揃 芳虎画

庄  
地本 錦繪 問屋  
江戸中橋廣小路  
山田屋庄次郎

庄  
地本 錦繪 問屋  
江戸中橋廣小路  
山田屋庄次郎





安

子

深

安

箱

田  
信

